



2024年2月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2024年1月12日

上場会社名 株式会社 ラピーヌ

上場取引所 東

コード番号 8143 URL <https://www.lapine.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐々木 ベジ

問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐々木 ベジ

TEL 03-6635-1847

四半期報告書提出予定日 2024年1月15日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年2月期第3四半期の連結業績(2023年3月1日～2023年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年2月期第3四半期	1,814	31.1	238		222		227	
2023年2月期第3四半期	2,632		426		282	32.2	274	35.6

(注) 包括利益 2024年2月期第3四半期 191百万円 (%) 2023年2月期第3四半期 308百万円 (77.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年2月期第3四半期	96.11	
2023年2月期第3四半期	116.00	115.66

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年2月期第3四半期	3,463	958	27.7
2023年2月期	4,024	1,155	28.6

(参考) 自己資本 2024年2月期第3四半期 958百万円 2023年2月期 1,149百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年2月期		0.00		0.00	0.00
2024年2月期		0.00			
2024年2月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年2月期の連結業績予想(2023年3月1日～2024年2月29日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,500	24.2	250	61.5	0		0		0.00

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年2月期3Q	2,567,064 株	2023年2月期	2,567,064 株
期末自己株式数	2024年2月期3Q	202,822 株	2023年2月期	202,759 株
期中平均株式数(四半期累計)	2024年2月期3Q	2,364,267 株	2023年2月期3Q	2,364,339 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

また、1株当たり情報の端数処理方法につきましては、有価証券報告書、四半期報告書に合わせて、切捨てとしております

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の第5類移行が2023年5月から始まり、経済活動の回復が進む中、人流の増加やインバウンド需要の回復などを受けて、景気は緩やかながらも持ち直し傾向がみられましたものの、物価上昇やエネルギー・資源価格の高止まり、円安基調の長期化など、今後の先行きは不透明な状況が続いております。

当アパレル業界におきましても、行動制限の緩和から人流が回復し、外出機会が増加傾向を示しておりますが、当社グループの主力顧客層であるミセス層を中心とした生活者の節約志向から、衣料品の消費マインドの回復は鈍く、引き続き厳しい状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループは、引き続き、百貨店に出店するアパレル店舗のあるべき姿を求めて業務改革に取り組んでおります。消費者にお買い求めやすい価格帯商品の展開、新規顧客の開拓を中心とした改革に加え、専門店卸販路の回復、拡大にも注力してまいりました。

また、原材料価格の上昇圧力が高まる中、製造・仕入のコントロール、製造原価低減の工夫、固定経費及び変動経費の削減を継続し、適正利益の確保に努め、近年の厳しい経営環境に対処してまいりました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は18億14百万円（前年同期比31.1%減）となりました。損益面におきましては、安売りを抑え同時に売上原価の低減に努めました。併せて販売費及び一般管理費の抑制もいたしました。営業損益は2億38百万円の損失（前年同期は4億26百万円の損失）にとどめることができました。経常損益は、前年まであった雇用調整助成金収入が無くなった上でも2億22百万円の損失（前年同期は2億82百万円の利益）に抑えられました。また、親会社株主に帰属する四半期純損益は2億27百万円の損失（前年同期は雇用調整助成金があったため2億74百万円の利益）となりました。

セグメント別の業績の概要は次のとおりです。

<卸売事業>

百貨店販売事業においては、若年層における顧客離れや既存顧客の高齢化の進行と、衣料に対する需要が減退する市場環境に対応するために、消費者がお買い求めやすい商品価格に設定して、若い世代の客層を取り込み、売上を回復することに取り組んでまいりました。

そのために、当社の商品企画や発注の体制を改め、自社の企画力や技術力およびマーケティング力を向上させるための社員教育を積極的に実行しております。

従来の品質を保ちながら、仕入原価率を抑制するために、少量多品種であっても生産方針の見直しを行い、市場に適した価格での供給に取り組むことにより、売上回復および粗利益率の改善を進め、今後の事業の収益性を高めてまいります。

専門店販売事業においては、取引条件や不採算取引の見直しを徹底して遂行し、デリバリー、収益面の改善に努めております。

また、従来の商慣習であった展示会ベースから受注リードタイムを短くし、リアルシーズン化を図ることで受注精度向上、店頭消化促進に繋がり、コロナ後の新たなアパレル卸として新規・新販路開拓に取り組んでおります。

しかしこのような中、一部百貨店に対して店舗の一時営業休止を行った影響が大きく、当事業の当第3四半期連結累計期間の売上高は8億59百万円（前年同期比44.3%減）となり、損益面では、粗利益率は大きく改善したものの、経費の削減が追いつかず、営業損益は2億36百万円の損失（前年同期は3億82百万円の損失）となりました。

<小売事業>

卸売事業と同様に、小売店頭の売上が厳しい中、立地別、店舗別の効率改善に取り組み、店舗のスクラップアンドビルドを行いました。また、お客様本位の魅力ある品揃えの強化、販売促進策の打ち出しに努め、新規お客様の獲得に努め、損益改善に注力してまいりました。本部の強力な指導のもと、経費の効率的運用を行い、売上原価を大きく改善させました。

その結果、当事業の当第3四半期連結累計期間の売上高は9億46百万円（前年同期比12.3%減）となり、営業損益は28百万円の利益（前年同期は20百万円の損失）となりました。

直営店数につきましては、当第3四半期連結累計期間中に、新規出店はなく、不採算店2店を退店し、同期間末の運営店舗数は当社グループ合計で32店となりました。

<福祉事業>

当社グループの社会福祉への取組みとして、障害者総合支援法に基づく「障害者福祉サービス事業」と農地法に基づく農業委員会の認可を受けた「野菜の生産及び販売事業」を両立させる事業を行う会社として2012年にラピーヌ夢ファーム株式会社を設立し事業を行っております。事業規模としては、連結売上高に占める割合は小さいものの、水耕栽培に加えて土耕栽培にも注力し、採算性改善に努めております。

当事業の当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高8百万円（前年同期比12.1%減）となり、営業損益は30百万円の損失（前年同期は23百万円の損失）となりました。

なお、福祉事業に関しましては、就労支援事業運営費収入20百万円、特定求職者雇用開発助成金他6百万円の営業外収益などがあり当第3四半期累計期間の当期純損失は3百万円となりました。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べて5億61百万円減少し、34億63百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べて5億83百万円減少し、19億26百万円となりました。これは主に、商品及び製品の増加77百万円などがあった反面、現金及び預金の減少7億26百万円などがあったことによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて21百万円増加し、15億36百万円となりました。これは主に、差入保証金の減少39百万円などがあった反面、投資有価証券の増加54百万円などがあったことによります。

（負債）

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べて3億64百万円減少し、25億4百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べて3億58百万円減少し、14億70百万円となりました。これは主に、短期借入金の減少1億66百万円、未払金の減少75百万円、支払手形及び買掛金の減少64百万円などがあったことによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて6百万円減少し、10億33百万円となりました。これは主に、資産除去債務の減少8百万円などがあったことによります。

（純資産）

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べて1億97百万円減少し、9億58百万円となりました。これは主に、利益剰余金の減少2億27百万円などがあったことによります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年2月期の通期の業績予想につきましては、2023年10月12日に公表しました業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,088,134	1,361,589
受取手形、売掛金及び契約資産	246,466	301,527
商品及び製品	136,578	214,465
仕掛品	4,842	2,022
原材料及び貯蔵品	6,652	3,745
その他	27,991	44,134
貸倒引当金	△1,118	△1,113
流動資産合計	2,509,547	1,926,371
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	—	1,868
工具、器具及び備品（純額）	—	411
土地	941,058	941,058
有形固定資産合計	941,058	943,338
投資その他の資産		
投資有価証券	316,888	371,050
差入保証金	205,403	166,143
退職給付に係る資産	47,467	52,460
その他	10,139	9,775
貸倒引当金	△5,995	△5,995
投資その他の資産合計	573,904	593,434
固定資産合計	1,514,962	1,536,772
資産合計	4,024,509	3,463,143

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年11月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	188,115	123,425
電子記録債務	12,344	16,641
短期借入金	1,070,356	904,160
未払金	409,604	334,508
未払費用	45,380	47,538
未払法人税等	14,129	11,648
契約負債	22,418	7,487
その他	66,636	25,572
流動負債合計	1,828,985	1,470,981
固定負債		
長期借入金	730,000	730,000
繰延税金負債	34,078	37,745
資産除去債務	164,294	156,037
長期預り保証金	4,208	3,708
訴訟損失引当金	100,000	100,000
その他	7,298	6,373
固定負債合計	1,039,880	1,033,864
負債合計	2,868,866	2,504,846
純資産の部		
株主資本		
資本金	30,000	30,000
資本剰余金	849,263	849,263
利益剰余金	316,410	89,173
自己株式	△246,134	△246,154
株主資本合計	949,540	722,283
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	137,310	182,790
退職給付に係る調整累計額	62,766	53,224
その他の包括利益累計額合計	200,076	236,014
新株予約権	6,027	—
純資産合計	1,155,643	958,297
負債純資産合計	4,024,509	3,463,143

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年11月30日)
売上高	2,632,825	1,814,757
売上原価	970,976	520,618
売上総利益	1,661,849	1,294,138
販売費及び一般管理費	2,088,378	1,532,344
営業損失(△)	△426,528	△238,205
営業外収益		
受取利息	30	2
受取配当金	4,891	5,291
助成金収入	708,362	20,798
その他	8,500	10,465
営業外収益合計	721,784	36,557
営業外費用		
支払利息	12,266	13,487
その他	922	6,988
営業外費用合計	13,188	20,475
経常利益又は経常損失(△)	282,068	△222,123
特別利益		
新株予約権戻入益	—	6,027
特別利益合計	—	6,027
特別損失		
固定資産除売却損	—	4,081
事業所閉鎖損失	304	—
特別損失合計	304	4,081
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	281,763	△220,178
法人税、住民税及び事業税	7,488	7,058
法人税等合計	7,488	7,058
四半期純利益又は四半期純損失(△)	274,275	△227,237
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	274,275	△227,237

(四半期連結包括利益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年11月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	274,275	△227,237
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	19,810	45,479
退職給付に係る調整額	14,327	△9,541
その他の包括利益合計	34,137	35,937
四半期包括利益	308,413	△191,299
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	308,413	△191,299
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当社グループは、第71期（2019年2月期）から第75期（2023年2月期）連結会計年度において、営業損失を計上しておりました。当第3四半期連結累計期間においても営業損失を計上、通期の業績予想でも営業損失を見込んでおり、営業活動によるキャッシュ・フローの改善は見込まれておりません。

また、取引金融機関からは借入金元本の返済猶予を受けており、継続して借入金弁済条件の変更交渉を行っております。

これらの状況により、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在していません。

当社グループは、当該状況を解消すべく、以下の対応策を実行に移しております。

①卸売・小売事業については、

・製品の品質は維持向上を図りながら、パターン・縫製仕様の合理化を進め、よりお買い求めやすい販売価格で、売れ筋のトレンドを押さえた新作デザインを展開し、幅広いお客様層へ訴求できる魅力ある新商品の提供に努めていきます。

・百貨店、直営店売場など店頭VP（ビジュアルプレゼンテーション）は、顧客向けだけでなく、ラピーヌ商品の未購買消費者に向けてのアピールを強化し、新規顧客の獲得、増大を図っております。

・製造、仕入額のコントロールとジャストインタイムの納期コントロールによる在庫リスクの低減に努めております。

・製造原価の低減による適正粗利確保の取り組みを推し進めるとともに、引き続き固定経費の徹底的削減を継続して、売上高の維持拡大と安定的な営業利益を確保できる体制を整えてまいります。

②ラピーヌ夢ファーム株式会社の福祉事業については、葉もの野菜の水耕栽培、土耕栽培野菜の選定と生産性向上を進めるとともに、施設利用者の作業効率アップに資する教育訓練に努め、営業利益の創出を実現できる体制を整えてまいります。

③資金の確保については、製造原価の低減、販売費及び一般管理費削減の継続的取り組み、取引金融機関への借入金元本返済猶予の依頼、政府による緊急経済対策に基づく各種税金及び社会保険料の納付猶予制度などの利用により、当第3四半期連結会計期間末における現金及び預金は13億61百万円と、当面の事業継続に必要な資金を確保しております。今後も同様の取り組みを継続するとともに、取引金融機関との良好な関係を維持しつつ、継続的に支援いただくための協議を行ってまいります。

以上の対応策の実施により、事業面及び財務面での安定化を図り、当該状況の解消、改善に努めてまいります。

しかしながら、これらの対策は実施途上であり、今後の営業損益及び財務面に及ぼす影響の程度や期間について不確実性があることから、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、当第3四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を、四半期連結財務諸表に反映しておりません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自 2022年3月1日 至 2022年11月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	卸売事業	小売事業	福祉事業	計		
売上高						
顧客との契約から 生じる収益	1,543,371	1,079,780	9,674	2,632,825	—	2,632,825
その他の収益	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	1,543,371	1,079,780	9,674	2,632,825	—	2,632,825
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	1,543,371	1,079,780	9,674	2,632,825	—	2,632,825
セグメント損失（△）	△382,541	△20,626	△23,360	△426,528	—	△426,528

(注) セグメント損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間（自 2023年3月1日 至 2023年11月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	卸売事業	小売事業	福祉事業	計		
売上高						
顧客との契約から 生じる収益	859,759	946,495	8,502	1,814,757	—	1,814,757
その他の収益	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	859,759	946,495	8,502	1,814,757	—	1,814,757
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	859,759	946,495	8,502	1,814,757	—	1,814,757
セグメント利益又は損失（△）	△236,609	28,609	△30,205	△238,205	—	△238,205

(注) セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。